

「阪谷の今を考える座談会」第6回 ご報告

開催日：令和5年9月15日（金） 午後7時～

場 所：阪谷公民館 2階 大広間

参加者：15名



テーマ：移住しやすい環境・家屋とは

- 三浦紋人さん（地域おこし協力隊）、鈴木翔太さん（市地域文化課）を招いて、日頃そういった業務に携わっている方の経験談や移住の現状を聞こう!!
- 率直な感想や日頃思っていることを自由に言い合おう!!



【座談会の目的やルール】

[目的]

- 阪谷地区の今について、みんなで思っていることや考えていることを自由に話し合っ、そこから地域の問題解決のヒントになるようなことがないか、阪谷の望ましい将来像とはなどについて考えましょう。
(※みなさん、地域のいろいろな団体や会で役などをされているとは思いますが、ここでは、一個人として思いや考えを言っていたいただければと思います。)

[ルール]

- この会で結論をとることはしません。みなさんの意見は貴重なご意見として主催側で参考にさせていただきます。ですので、他者の意見に同調するのは大いにOKですが、否定することはやめましょう。

[その他]

- この会で出た意見は、貴重な意見として公開（氏名等は公開しません）することにご了承ください。

【座談会（第6回）で出た感想、意見等】

〔3テーブルに分かれて、テーブルごとで下記テーマ等について意見交換〕

主なテーマ： ◆移住しやすい環境・家屋とは

第1テーブル

- ◆ 阪谷地区は確かに自然環境が豊かで水もおいしいが、反面カメムシなどの害虫が多く、イノシシやクマなどの害獣の出没もあり、そのようなマイナス面も含め、このような中山間部への移住を希望している人は具体的にどのような想いでいるのかと日頃気になっている。
- ◆ 「空き家」は下水道等に不備があったりするケースが多いが、その不備部分等の改修について、移住者に対して市から何か補助があるのか、また、どのような補助があるのかについて情報がほしい。
- ◆ 必要に応じて空き家等家屋のリノベーションを行ってはどうか。また、地元住民らとともにバーベキューなどのお楽しみ活動を通して共同生活ができる環境を整えていってはどうか。
- ◆ 近年、リモートワークが可能な職種が増えているので、市や県と連携しながら、地方都市における空き家の利活用を進めていくと良い。
- ◆ 家屋のリノベーションも必要に応じて行うと良いと思う反面、上下水道も含め、できるだけ現状の姿（地域や家屋）を維持しながら移住者の受け入れ対策を進めてはどうか。
- ◆ 豊かな自然環境を保持、活用して、都会から地方都市への保育園留学（例：静岡県富士市）など体験型保育をしているケースが見られる。阪谷地区においても、今後、山村留学等の誘客を模索しながら、近年増えている「空き地、空き家」問題や小学校閉校後の校舎の利活用を考えていくと良いのではないかと。
- ◆ 「地域資産再生集落」について、三浦紋人氏（地域おこし協力隊）から兵庫県丹波篠山市の丸山集落について紹介をいただいた。

第2テーブル

- ◆ 次に挙げるような移住の障害になる事象を把握することで、そこから「移住」を前に進める条件が見えてくると思われる。
 - ・地域住民が高齢者であること。
 - ・自然のままの景観のすばらしさは売りになるが、阪谷地区は山際の地域で自然災害の危険度が高い。（ただし、ここ数十年は災害の発生はないと思う。）

- インフラが行き届いた地域とは言い難い。ただし、それが良いとする人にとっては、好条件の地域と言える。
- 互いに友好的な心が必要（自分勝手はトラブルのもと）。地域の住民は歓迎する心がほしい。移住希望者は地域の風習や規則に従う心がほしい。

第3テーブル

- ◆ まわりを見渡すと空き家が増えてきたなと思うことがある。
- ◆ 住む家と思うと、お風呂や水回りなどは気になるポイントである。
- ◆ 移住の場合、家のハード的なことよりも、そこで生活し住んでいくための人と人との関係や環境が重要であると思う。ハード的なマッチングの他に、移住を考える人と地域に住む人との間をそういった面をつなぐ（マッチングできる）ような人が重要だと思う。地域の者としてそういった点で協力できればと思う。
- ◆ 現地体験などは1回来ただけではなかなか決め手にはならない。単発ではなくステップをふんだ複数回の体験（子どもの保育など）などを繰り返していくことが、最終的に移住の決め手につながると思う。